

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	佐世保工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科			3	8	11	7	
	電気電子工学科			3	8	11	7	
	電子制御工学科			3	5	8	7	
	物質工学科			3	9	12	7	
	複合工学専攻			4	10	14	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=46&year=2019

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	佐世保工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kosen-k.go.jp/about/release/index.html#yakuinmeibo>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	平成28年4月1日～ 令和6年3月31日	理事長
常勤	東京工業大学 理事・副学長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	平成26年4月1日～ 令和2年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	佐世保工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
非常勤講師を含む全教員が、担当科目の授業計画(授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、その他の事項を記載)を作成し、教務主事並びに各学科の教務主事補等により内容を確認の上、年度初めにウェブサイトにて公表している。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=46&year=2019
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

各授業科目のシラバスには以下の項目が記載されている。
科目基礎情報、到達目標、ルーブリック（評価基準）、
学科の到達目標項目との関係
教育方法等（概要、授業の進め方と授業内容・方法、注意点）、
授業計画、評価割合

教員はシラバスの記載事項に則り、適切に授業を行い、各学生の学修成果を把握している。また、年度末に開催される進級判定会議等において「佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則」に規定された条件を満たしているかを審議し、適切に学修成果の評価を行い、単位を認定している。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

各学生の成績は、「佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則」第13条に則り、100点法によって評価されている。規則は学生便覧に掲載し、全学生に周知している。

前期末、後期末に全教員に配布される学級成績一覧表には、成績が提出されている科目の総合計点及び評価点の平均点の他、スコアの値が大きい者を上位としたクラス順位が明記されており、全教員に配布される。

平均点及び順位付けのルールについては、以下のとおりである。

(本科)

1. 順位付けに用いる科目群

前期末では、前期並びに通年開講され、前期末に成績が提出されている科目を対象とする。

また、前期末の順位付けにおいて、後期に追試験を行った結果は、後期末の成績に反映される。

後期末では、後期並びに通年開講され、後期末に成績が提出されている科目を対象とする。

上記において、通年開講される科目とは、前期に開始し、後期に終了する科目を指す。

2. 順位付けに用いるスコア

前記した前期履修科目および後期履修科目（通年開講科目を含む）それぞれについて、当該学生の評価点の平均を順位付けのためのスコアとする。評価点の平均は小数点以下第2位を四捨五入する。

3. 順位の決定方法

各学科・各学年において、上記のスコアの値の大きい者を上位とする。スコアが同点の場合は同順位とする。なお、留学生並びに休学者は順位決定の対象外とする。

4. 対象除外の科目

特別活動

(専攻科)

1. 順位付けに用いる科目群

前期末では、前期に開講されている科目を対象とする。なお、通年開講される科目は成績提出の有無を問わず、対象としない。

後期末では、後期に開講されている科目並びに通年開講されている科目を対象とする。

上記において、通年開講される科目とは、前期に開始し、後期に終了する科目を指す。

2. 順位付けに用いるスコア

前記した前期履修科目および後期履修科目（通年開講科目を含む）それぞれについて、当該学生の評価点の平均を順位付けのためのスコアとする。評価点の平均は小数点以下第2位を四捨五入する。

3. 順位の決定方法

各学年において、上記のスコアの値の大きい者を上位とする。スコアが同点の場合は同順位とする。なお、休学者は順位決定の対象外とする。

◇順位付けは専攻（系）ごとに行っており、全専攻での順位付けは行っていない。

4. 対象除外の科目

他機関において受講した科目

◇他の高等専門学校及び高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則により、認定科目として成績を評価しているため。

成績通知表は全学生に配布され、各自の「学習の記録（冊子）」に保管することで、1年次からの通知表を確認することができる。通知表には、各科目評定並びにクラス平均点、成績の総点、平均点、学級平均点、学級順位が掲載されており、学生自身が、クラスのどの位置に自分の成績があるかを把握することができる。

また、学年ごとの各試験成績の推移を自身で記入し、反省点を次年度以降の学習計画に活かしている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

http://www.sasebo.ac.jp/snct/education/sprt_higher-ed

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本科のディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

■機械工学科

機械工学科は、機械工学系分野の技術者に必要な基礎知識と専門知識、技術の習得に加え、人文社会系の素養も身につけ、自ら学び考え、課題を解決する創造性豊かな実践力のある人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

<修得する能力>

- 1) 材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、機械工作法、メカトロニクス等を活用して、自ら課題を探索し解決できる基礎能力
- 2) 機械工作実習、機械工学実験、社会人基礎力育成セミナー等の実技科目や卒業研究などを通じて養成される創造性と実践力
- 3) 業務遂行に必要な論理的な思考力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
- 4) 豊かな教養、倫理観、及び地球的な視野を元に人類の幸福のために貢献できる能力

■電気電子工学科

電気電子工学科は、電気・電子系分野の技術者に必要な基礎知識と専門知識、技術の習得に加え、人文社会系の素養も身につけ、自ら学び考え、課題を解決する創造性豊かな実践力のある人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

<修得する能力>

- 1) 電気回路や電磁気学などの工学系基礎科目の習得を通して得られる、電気工学、電子工学に関する幅広い技術を活用して、自ら課題を探索し解決できる能力
- 2) 電気電子情報工学実験等の実技科目や卒業研究などを通じて養成される創造性と実践力
- 3) 業務遂行に必要な論理的な思考力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
- 4) 豊かな教養、倫理観、及び地球的な視野を元に人類の幸福のために貢献できる能力

■電子制御工学科

電子制御工学科は、情報通信系、電気電子系、機械制御系分野の技術者に必要な基礎知識と専門知識、技術の習得に加え、人文社会系の素養も身につけ、自ら学び考え、課題を解決する創造性豊かな実践力のある人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

<修得する能力>

- 1) ソフトウェア、コンピュータおよび電子制御技術等を理解し、それらを応用して自動化システム・ロボットシステム・知能化システムをデザインし、自ら課題を探索し解決できる能力
- 2) 情報処理や工学実験などの実験実習の実技科目や卒業研究などを通じて養成される創造性と実践力
- 3) 業務遂行に必要な論理的な思考力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
- 4) 豊かな教養、倫理観、及び地球的な視野を元に人類の幸福のために貢献できる能力

■物質工学科

物質工学科は、化学および生物系分野の技術者に必要な基礎知識と専門知識、技術の習得に加え、人文社会系の素養も身につけ、自ら学び考え、課題を解決する創造性豊かな実践力のある人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、

所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

<修得する能力>

- 1) 化学や生物に関する基礎知識や、素材開発やエネルギー・環境問題への対応力あるいは生命工学に関する知識・技能を活用して、自ら課題を探求し解決できる能力
- 2) 物質化学実験等の実技科目や卒業研究などを通じて養成される創造性と実践力
- 3) 業務遂行に必要な論理的な思考力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
- 4) 豊かな教養、倫理観、及び地球的な視野を元に人類の幸福のために貢献できる能力

専攻科のディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

■複合工学専攻

複合工学専攻は、グローバル化した社会において、高度化、複合化した工学分野の諸問題を解決して「もの創り」を行うために、各専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、化学・生物工学）について深い専門性を養いつつ、先進的な他の専門分野の知識と技術も身につける複合的な教育を行うことにより、複眼的な問題解決能力を備えた創造性豊かな、世界に通用する「もの創り技術者」を育成する。このような人材育成を達成するために、本校に在籍し、所定の単位を修得し、かつ、以下のような能力を身につけた学生に対して、修了を認定する。

(A) 工学の基礎と専門

- 1) 数学（微分積分学、線形代数、微分方程式、確率・統計など）と自然科学（物理、化学など）の基礎知識を身につけて、工学的諸問題の解決に応用できること。
- 2) 情報技術の基礎知識を身につけて、情報収集、実験データの解析・評価のツールとしてコンピュータを活用できること。
- 3) 基礎工学の知識を身につけて、複合化した「もの創り」の実務における工学的諸問題の解決に応用できること。
- 4) それぞれの専門分野における“もの創り”のための4つの専門科目群（材料・要素、設計・製造、評価・解析、複合系）の知識を身につけて、“もの創り”に応用できること。

(B) 地球的視点と技術者倫理

- 1) 他の国の歴史的・文化的背景や国際問題に関する基礎知識を身につけて、グローバルな視点でものごとを考えることができること。
- 2) 技術が社会や自然に与える影響・効果を理解して、技術者としての責任を自覚できること。

(C) コミュニケーション能力

- 1) 技術的な内容を日本語により文章や口頭で論理的に説明できること。
- 2) 相手の質問や意見を聞いて日本語で適切に答えることができること。
- 3) 英語による基礎的なコミュニケーションができること。
- 4) 基礎的な技術英語の文章を読み書きできること。

(D) 複眼的かつ実践的能力

- 1) 自分で具体的な計画や手順を決めて基礎的な実験を実施し、得られた結果を正しく評価・解析して考察し、論理的に説明できること。
- 2) いくつかの専門分野の知識や利用可能な情報・技術・手段を駆使するとともに創造性を発揮して、調査・解析をおこない、解決策を組み立てて実行し、課題を解決できること。
- 3) 社会の要求する課題を解決するにあたって、その内容を分析して、計画や方策を複眼的にデザインできること。
- 4) 実験、実習、研究、インターンシップなどを通して実践的能力を身につけ、技術者が経験する実務上の問題や課題を理解して適切な対応ができること。

(E) 自主・自立と協調性

- 1) 社会の要請に迅速に対応し、科学技術の進展を先導するため、自主的・継続的に学習できること。
- 2) 要求された課題に対して、自立して、あるいは他の人と協力しながら計画的に作業を進め、期限内に終わらせることができること。
- 3) 健全な心身を持ち、学内外の人々と協調して行動できること。

上記ディプロマ・ポリシーに則り、年度末に開催される卒業判定会議において「佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則」に規定された要件を満たしているかを審議し、適切に卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikansurukisoku.pdf>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	佐世保工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H29jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH29.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:平成31年度(2019年度))
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-h31.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.sasebo.ac.jp/snct/disclosure/gaibu-hyouka

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.sasebo.ac.jp/snct/disclosure/hyouka

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的(公表方法: http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)
(概要) 一 材料力学・機械力学・熱力学・流体力学という 4 つの力学科目の習得を通して、機械工学系技術者としての基礎能力を養成する。 二 機械工作、機械材料、機構、設計などのものづくり技術関連分野に加え、制御工学や電気・電子工学分野などのメカトロニクス技術関連分野の習得により、機械装置・機械システムの設計開発能力を養成する。 三 ものづくりの基盤となる機械製図や機械工作実習、機械工学実験を通して実践力を育み、卒業研究では自学自習能力の向上とともに、総合的な課題解決能力および技術開発能力を養成する。
卒業の認定に関する方針(公表方法: http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)
(概要) 機械工学系分野の技術者に必要な基礎知識と専門知識、技術の習得に加え、人文社会系の素養も身につけ、自ら学び考え、課題を解決する創造性豊かな実践力のある人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 <修得する能力> 1) 材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、機械工作法、メカトロニクス等を活用して、自ら課題を探 求し解決できる基礎能力 2) 機械工作実習、機械工学実験、社会人基礎力育成セミナー等の実技科目や卒業研究などを通じて養成される創造性と実践力 3) 業務遂行に必要な論理的な思考力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力 4) 豊かな教養、倫理観、及び地球的な視野を元に人類の幸福のために貢献できる能力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)
(概要) ディプロマ・ポリシーにおいて掲げた能力を育成するために、以下の科目群で教育課程を編成する。 1) 一般科目のカリキュラム・ポリシーに記載された、理数系の基礎・応用力、豊かな教養と人間性、国際性を育むための共通基礎科目 2) 機械工学の基礎・専門に関する科目:機械工作法、材料学、情報工学、材料力学、機械力学、熱工学、流体工学、電気・電子工学、制御工学などを基盤とした基礎・専門科目 3) 技術修得に関する科目:実践的な機械工学実験、機械工作実習、設計製図、ものづくり総合実習、創作実習などの実技科目 4) 課題解決能力育成科目:卒業研究や文献講読、機械工学特別演習、社会人基礎力育成セミナーなど、基礎・専門知識や技術を活用して自ら課題を探求し解決できる能力、自主性や協調性、等を総合的に育成するための科目
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自然現象に対して好奇心が強く、ものづくりの好きな人 2) 機械に興味をもち、機械に関する専門知識と技術を習得したい人 3) 基礎学力を有し、それらを活用して論理的に思考し、表現できる人 4) 技術者として人類の幸福に貢献したり国際的に活躍したい人 <p>○選抜方針</p> <p>◇推薦による選抜</p> <p>推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜する。</p> <p>◇学力検査による選抜</p> <p>中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とする。</p>

<p>学部等名 電気電子工学科</p> <p>教育研究上の目的(公表方法:http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 電気回路や電磁気学などの工学系基礎科目の習得を通して、電気電子系技術者としての基礎能力を養成する。 二 電気工学、電子工学および情報通信工学の三分野の幅広い技術を教授し、エネルギー・エレクトロニクス・コンピュータ分野で課題を追及・解決できる能力を養成する。 三 電気電子情報工学実験や実習などの実践的学習を通して、計画・遂行・データ解析・工学的考察および説明能力を育み、卒業研究においては技術開発能力を養成する。
--

<p>卒業の認定に関する方針(公表方法: http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>電気・電子系分野の技術者に必要な基礎知識と専門知識、技術の習得に加え、人文社会系の素養も身につけ、自ら学び考え、課題を解決する創造性豊かな実践力のある人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。</p> <p><修得する能力></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 電気回路や電磁気学などの工学系基礎科目の習得を通して得られる、電気工学、電子工学に関する幅広い技術を活用して、自ら課題を探索し解決できる能力 2) 電気電子情報工学実験等の実技科目や卒業研究などを通じて養成される創造性と実践力 3) 業務遂行に必要な論理的な思考力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力 4) 豊かな教養、倫理観、及び地球的な視野を元に人類の幸福のために貢献できる能力
--

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法: http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>ディプロマ・ポリシーにおいて掲げた能力を育成するために、以下の科目群で教育課程を編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一般科目のカリキュラム・ポリシーに記載された、理数系の基礎・応用力、豊かな教養と人間性、国際性を育むための共通基礎科目 2) 電気電子工学の基礎・専門に関する科目: 電気回路、電気機器、電力工学、情報通信工学などを基盤とした基礎・専門科目 3) 技術修得に関する科目: 実践的な電気電子情報工学実験、電気電子製図演習、情報工学基礎演習などの実技科目
--

4) 課題解決能力育成科目：実技科目や卒業研究など、基礎・専門知識や技術を活用して自ら課題を探求し解決できる能力、自主性や協調性、等を総合的に育成するための科目
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>1) 自然現象に対して好奇心が強く、ものづくりの好きな人 2) 電気電子工学に興味をもち、電気電子工学に関する専門知識と技術を習得したい人 3) 基礎学力を有し、それらを活用して論理的に思考し、表現できる人 4) 技術者として人類の幸福に貢献したり国際的に活躍したい人</p> <p>○選抜方針 ◇推薦による選抜 推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜する。 ◇学力検査による選抜 中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とする。</p>

学部等名 電子制御工学科
<p>教育研究上の目的(公表方法:http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>一 情報通信系、電気電子系、機械制御系の基礎科目の習得を通して、電子情報・制御系技術者としての基礎能力を養成する。 二 ソフトウェアや電子制御システムの理解を通じて、コンピュータや電子回路技術を応用した自動化システム・ロボットシステム・知能化システムのデザイン能力を養成する。 三 情報処理や工学実験などの実験実習を通して実践力を育み、卒業研究では自学自習能力の向上とともに、問題解決能力および技術開発能力を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法： http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>情報通信系、電気電子系、機械制御系分野の技術者に必要な基礎知識と専門知識、技術の習得に加え、人文社会系の素養も身につけ、自ら学び考え、課題を解決する創造性豊かな実践力のある人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。</p> <p><修得する能力></p> <p>1) ソフトウェア、コンピュータおよび電子制御技術等を理解し、それらを応用して自動化システム・ロボットシステム・知能化システムをデザインし、自ら課題を探求し解決できる能力 2) 情報処理や工学実験などの実験実習の実技科目や卒業研究などを通じて養成される創造性と実践力 3) 業務遂行に必要な論理的な思考力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力 4) 豊かな教養、倫理観、及び地球的な視野を元に人類の幸福のために貢献できる能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>ディプロマ・ポリシーにおいて掲げた能力を育成するために、以下の科目群で教育課程を編成する。</p>

<p>1) 一般科目のカリキュラム・ポリシーに記載された、理数系の基礎・応用力、豊かな教養と人間性、国際性を育むための共通基礎科目</p> <p>2) 情報学、電気電子工学、機械工学の基礎・専門に関する科目：コンピュータ科学、ネットワーク・セキュリティ、電気・電子、制御・システム、ロボティクスなどを基盤とした基礎・専門科目</p> <p>3) 技術修得に関する科目：実践的な情報システム、ソフトウェア、電気・電子、制御・システムなどの実技科目</p> <p>4) 課題解決能力育成科目：実技科目や卒業研究など、基礎・専門知識や技術を活用して自ら課題を探究し解決できる能力、自主性や協調性、等を総合的に育成するための科目</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsrukisoku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>1) 自然現象に対して好奇心が強く、ものづくりの好きな人</p> <p>2) コンピュータやロボットに興味をもち、情報や電子制御システムに関する専門知識と技術を習得したい人</p> <p>3) 基礎学力を有し、それらを活用して論理的に思考し、表現できる人</p> <p>4) 技術者として人類の幸福に貢献したり国際的に活躍したい人</p> <p>○選抜方針</p> <p>◇推薦による選抜</p> <p>推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜する。</p> <p>◇学力検査による選抜</p> <p>中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とする。</p>

<p>学部等名 物質工学科</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsrukisoku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>一 有機化学系、無機化学系、分析化学系、化学工学系および生物工学系の基礎科目の習得を通して、化学・生物系技術者としての基礎能力を養成する。</p> <p>二 機能材料学や分子生物学などの分野の理解を通じて、化学および生物工学領域における課題探究能力を養成する。</p> <p>三 物質化学実験により実践力を育み、卒業研究により自学自習能力の向上とともに、課題解決能力および技術開発能力を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsrukisoku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>化学および生物系分野の技術者に必要な基礎知識と専門知識、技術の習得に加え、人文社会系の素養も身につけ、自ら学び考え、課題を解決する創造性豊かな実践力のある人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。</p> <p><修得する能力></p> <p>1) 化学や生物に関する基礎知識や、素材開発やエネルギー・環境問題への対応力あるいは生命工学に関する知識・技能を活用して、自ら課題を探究し解決できる能力</p> <p>2) 物質化学実験等の実技科目や卒業研究などを通じて養成される創造性と実践力</p> <p>3) 業務遂行に必要な論理的な思考力、情報リテラシー、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力</p> <p>4) 豊かな教養、倫理観、及び地球的な視野を元に人類の幸福のために貢献できる能力</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシーにおいて掲げた能力を育成するために、以下の科目群で教育課程を編成する。 1) 一般科目のカリキュラム・ポリシーに記載された、理数系の基礎・応用力、豊かな教養と人間性、国際性を育むための共通基礎科目 2) 物質工学の基礎・専門に関する科目：分析化学、有機化学や無機化学および生物化学、機器分析、有機・無機材料学や応用微生物学などを基盤とした基礎・専門科目 3) 技術修得に関する科目：実践的な物質化学実験（分析化学実験、微生物学実験、有機・無機化学実験、物理化学実験、化学工学実験、化学機器実験）、材料化学実験、生物化学実験などの実技科目 4) 課題解決能力育成科目：実技科目や卒業研究など、基礎・専門知識や技術を活用して自ら課題を探究し解決できる能力、自主性や協調性、等を総合的に育成するための科目</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>
<p>(概要) 1) 自然現象に対して好奇心が強く、ものづくりの好きな人 2) 化学や生物に興味をもち、物質工学に関する専門知識と技術を習得したい人 3) 基礎学力を有し、それらを活用して論理的に思考し、表現できる人 4) 技術者として人類の幸福に貢献したり国際的に活躍したい人 ○選抜方針 ◇推薦による選抜 推薦書及び中学校における調査書並びに面接の結果を総合して選抜する。 ◇学力検査による選抜 中学校における調査書及び学力検査の結果を総合して選抜します。学力検査は、理科、英語、数学、国語及び社会の5教科による試験とする。</p>
<p>学部等名 専攻科</p>
<p>教育研究上の目的(公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>
<p>(概要) 一 工学の基礎および専門分野に関する知識を教授し、創造性豊かな応用力を養成する。 二 地球的視点でものごとを考える素養および能力と、科学技術が自然や社会に及ぼす影響を理解できる人間としての倫理観を養成する。 三 日本語による技術的な内容の説明・討論ができる能力と国際社会を意識した英語によるコミュニケーション基礎能力を養成する。 四 他の専門技術分野に関する基礎知識と最新の知識を教授し、複合化・高度化した工学分野について複眼的な課題探求能力と問題解決能力を養成する。 五 自主的・継続的に学習でき、協調して行動できる能力を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針(公表方法： http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikanssurukisoku.pdf)</p>

(概要)

グローバル化した社会において、高度化、複合化した工学分野の諸問題を解決して「もの創り」を行うために、各専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、化学・生物工学）について深い専門性を養いつつ、先進的な他の専門分野の知識と技術も身につける複合的な教育を行うことにより、複眼的な問題解決能力を備えた創造性豊かな、世界に通用する「もの創り技術者」を育成する。このような人材育成を達成するために、本校に在籍し、所定の単位を修得し、かつ、以下のような能力を身につけた学生に対して、修了を認定する。

(A) 工学の基礎と専門

- 1) 数学（微分積分学，線形代数，微分方程式，確率・統計など）と自然科学（物理，化学など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できること。
- 2) 情報技術の基礎知識を身につけて，情報収集，実験データの解析・評価のツールとしてコンピュータを活用できること。
- 3) 基礎工学の知識を身につけて，複合化した「もの創り」の実務における工学的諸問題の解決に応用できること。
- 4) それぞれの専門分野における“もの創り”のための4つの専門科目群（材料・要素，設計・製造，評価・解析，複合系）の知識を身につけて，“もの創り”に応用できること。

(B) 地球的視点と技術者倫理

- 1) 他の国の歴史的・文化的背景や国際問題に関する基礎知識を身につけて，グローバルな視点でものごとを考えることができること。
- 2) 技術が社会や自然に与える影響・効果を理解して，技術者としての責任を自覚できること。

(C) コミュニケーション能力

- 1) 技術的な内容を日本語により文章や口頭で論理的に説明できること。
- 2) 相手の質問や意見を聞いて日本語で適切に答えることができること。
- 3) 英語による基礎的なコミュニケーションができること。
- 4) 基礎的な技術英語の文章を読み書きできること。

(D) 複眼的かつ実践的能力

- 1) 自分で具体的な計画や手順を決めて基礎的な実験を実施し，得られた結果を正しく評価・解析して考察し，論理的に説明できること。
- 2) いくつかの専門分野の知識や利用可能な情報・技術・手段を駆使するとともに創造性を発揮して，調査・解析をおこない，解決策を組み立てて実行し，課題を解決できること。
- 3) 社会の要求する課題を解決するにあたって，その内容を分析して，計画や方策を複眼的にデザインできること。
- 4) 実験，実習，研究，インターンシップなどを通して実践的能力を身につけ，技術者が経験する実務上の問題や課題を理解して適切な対応ができること。

(E) 自主・自立と協調性

- 1) 社会の要請に迅速に対応し，科学技術の進展を先導するため，自主的・継続的に学習できること。
- 2) 要求された課題に対して，自立して，あるいは他の人と協力しながら計画的に作業を進め，期限内に終わらせることができること。
- 3) 健全な心身を持ち，学内外の人々と協調して行動できること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsurukisoku.pdf>)

(概要)

ディプロマ・ポリシーにおいて掲げた能力を育成するために，高度科学技術の中核を担う専門職業人としての教養と専門基礎知識を有する技術者の養成を以下の内容で行う。

- 1) 理数系の基礎・応用力，豊かな教養と人間性，国際性を育むための数学（数理科学）や一般化学などの共通基礎科目および現代物理などの専門基礎科目
- 2) 地球的視点と技術者倫理に関する科目：日本語表現法，総合英語，応用コミュニケーション

ョンなどの語学教育により国際的に通用するコミュニケーション能力を養う科目。産業経済と技術者倫理，環境論，国際関係論などにより地球的視野で技術と社会の共生を追求しグローバルな視点をもつ技術者を育成する科目

3) 課題解決能力育成科目：技術者総合ゼミ，総合創造実験，総合創造演習などにより4つの系の専門分野をコラボレートし，システム創成能力と複眼的な問題解決能力を養う複合科目。特別研究などにより，基礎・専門知識や技術を活用して自ら課題を探索し解決できる能力，自主性や協調性，等を総合的に育成するための科目

4) 各工学系および産業数理技術者育成プログラムの，基礎・専門に関する知識と技術を習得する専門科目

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/jimu/kisoku/06-20-kyouikurinentounikannsurukisoku.pdf>)

(概要)

- 1) 科学と工学の基礎的学力を十分身につけている人
- 2) 社会性と倫理観を身につける意欲を持っている人
- 3) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人
- 4) 複眼的かつ実践的能力を身につける意欲を持つ人
- 5) 地域及び国際社会の発展のため，技術者として自主的に行動する意欲を持つ人

○選抜方針

◇推薦による選抜

◇推薦による選抜

入学者の選抜は，在籍学校長から提出された推薦書，調査書及び面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）の総合判定とする。

◇学力検査による選抜

入学者の選抜は，学力試験，英語資格試験取得申請書，調査書及び面接の総合判定とする。

◇社会人特別選抜

入学者の選抜は，所属長から提出された推薦書，調査書及び面接（専門科目に関する口頭試問を含む。）の総合判定とする。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/snct/disclosure/kyouiku_joho

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
一般科目	—	8人	7人	5人	0人	0人	20人
機械工学科	—	4人	4人	1人	1人	0人	10人
電気電子工学科	—	3人	6人	1人	0人	0人	10人
電子制御工学科	—	4人	4人	1人	2人	0人	11人
物質工学科	—	5人	5人	0人	1人	0人	11人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
人			36人				36人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&affiliationId=6704000000 http://www.sasebo.ac.jp/~kikaku/seeds2018/list_researchers.pdf					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
年に4回程度開催され、他機関より講師を招いての授業改善、学生支援、ハラスメント、情報セキュリティ等に関する講演等を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	43人	107.5%	200人	213人	106.5%	人	1人
電気電子工学科	40人	43人	107.5%	200人	203人	101.5%	人	人
電子制御工学科	40人	43人	107.5%	200人	210人	105.0%	人	2人
物質工学科	40人	44人	110.0%	200人	210人	105.0%	人	人
専攻科	16人	22人	137.5%	32人	49人	153.1%	人	人
合計	176人	195人	110.8%	832人	885人	106.4%	人	3人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	43人 (100.0%)	16人 (37.2%)	26人 (60.5%)	1人 (2.3%)
電気電子工学科	44人 (100.0%)	13人 (29.5%)	27人 (61.4%)	4人 (9.1%)
電子制御工学科	44人 (100.0%)	14人 (31.8%)	30人 (68.2%)	0人 (0.0%)
物質工学科	37人 (100.0%)	12人 (32.4%)	25人 (67.6%)	0人 (0.0%)
専攻科	29人 (100.0%)	8人 (27.6%)	21人 (72.4%)	0人 (0.0%)
合計	197人 (100.0%)	63人 (32.0%)	129人 (65.5%)	5人 (2.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
■進学先 (本科) 長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、東京大学、東京工業大学、大阪大学、九州大学 (専攻科) 奈良先端科学技術大学院、筑波大学大学院、九州大学大学院、九州工業大学大学院 ■就職先 (本科) トヨタ自動車(株)、マツダ(株)、キャノン(株)、東京ガス(株)、花王(株)、(株)LIXIL、 TOTO(株)、富士電機(株)、(株)日本触媒、日本精工(株)、東レ、旭化成(株)、 (専攻科) 旭化成(株)、積水化学工業(株)、(株)SUBARU、(株)NTTドコモ、(株)日本触媒 (備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
機械工学科	42人 (100.0%)	38人 (90.5%)	1人 (2.4%)	3人 (7.1%)	0人 (0.0%)
電気電子工学科	44人 (100.0%)	38人 (86.4%)	3人 (6.8%)	3人 (6.8%)	0人 (0.0%)
電子制御工学科	43人 (100.0%)	41人 (95.3%)	0人 (0.0%)	2人 (4.7%)	0人 (0.0%)
物質工学科	44人 (100.0%)	35人 (79.5%)	5人 (11.4%)	4人 (9.1%)	0人 (0.0%)
専攻科	28人 (100.0%)	28人 (100.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
合計	201人 (100.0%)	180人 (89.5%)	9人 (4.5%)	12人 (6.0%)	0人 (0.0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>各授業科目担当教員が、ウェブシラバスを用いて授業計画を作成し、ウェブサイトにて公表している。</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=46&year=2019</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>佐世保工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定等に関する規則において具体的な基準等を定めている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
本 科	機械工学科	167単位	無	単位
	電気電子工学科	168単位	無	単位
	電子制御工学科	167単位	無	単位
	物質工学科	167単位	無	単位
専攻科	複合工学専攻	124単位	無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：学生の学会賞等受賞の情報は、本校ウェブサイトにより公表している。 http://www.sasebo.ac.jp/snct/news/2019/05/22/22647		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：http://www.sasebo.ac.jp/snct/disclosure/kyouiku_joho</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	機械工学科	234,600 円	84,600 円	94,050～ 101,750 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円
	電気電子工学科				教科書代 約 40,000 円
	電子制御工学科				後援会費 36,000 円
	物質工学科				学生会費 16,500 円 寄宿料 (寮生のみ) 7,700 円
	複合工学専攻	234,600 円	84,600 円	52,550 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 後援会費 26,000 円 教科書代 約 25,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 佐世保工業高等専門学校特別支援教育部会規程を定め、年3回程度、定期的に特別支援教育部会を開催し、支援を要する学生に対する対応を協議し、情報を共有すると共に、長崎大学から専門家を招き、支援に関する助言をいただいている。 また、本校公式ホームページにおいて障害学生支援体制や相談窓口を公開している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 適切な進路指導について各学科で組織的に取組み、OB、OG来校の際は、学生へ講話の機会を設けている。 キャリア教育支援室と連携し、5年間一貫したキャリア・デザイン教育を実行している。特に、低学年のキャリア教育では、キャリア教育支援室の存在やその活動を紹介し、就職資料の閲覧、コーディネータに対する就職関連の相談などを推奨している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 3名の臨床心理士によるカウンセリング（1名の臨床心理士による月2回程度のカウンセリング、2名による毎週1～2回のカウンセリング）を実施している。 状況に応じて、担任・保護者・学科と連携して対応する。また、教職員の発達障害、身体障害およびハラスメントへの理解を深めるため、メンタルヘルスや学生相談技法などに関する研修会への積極的な参加を促す。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : http://www.sasebo.ac.jp/snct/disclosure/kyouiku_joho